



Title	Marris実験肝癌におけるCa++依存性ホスホジエステラーゼとそのCa++依存性調節蛋白
Author(s)	上西, 罔宏
Citation	大阪大学, 1980, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/32900
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名・(本籍)	上 ^{うえ} 西 ^{にし} 園 ^{くに} 宏 ^{ひろ}
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 記 番 号	第 5 0 5 1 号
学位授与の日付	昭 和 55 年 8 月 6 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当
学 位 論 文 題 目	Morris 実験肝癌における Ca^{++} 依存性ホスホジエステラーゼとその Ca^{++} 依存性調節蛋白
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 坂本 幸哉 (副査) 教 授 垣内 史朗 教 授 吉田 博

論 文 内 容 の 要 旨

〔目 的〕

cyclic nucleotide 及び Ca^{++} が細胞増殖に大きく関与していることは広く認められていることであり, この Ca^{++} の作用の細胞内 mediator として Ca^{++} 依存性 modulator 蛋白 (calmodulin, CDR) の存在が注目されている。Morris 実験肝癌の早い増殖型 (3924A), 遅い増殖型 (9633, 7794A) 及び正常肝を用いて, Ca^{++} 依存性 phosphodiesterase (以下 PDE) とその Ca^{++} 依存性 modulator 蛋白の動態を比較検討した。

〔方 法〕

Morris 実験肝癌 3924A は移植後 2 週間, 直径約 5 cm のものを, 9633 及び 7794A は移植後 6 ケ月 及び 3 ケ月の 3 cm ~ 5 cm のものを用いた。可溶分画, 顆粒分画 PDE 及び modulator 蛋白標品の分離は, 肝癌 (又は正常肝) を 5g 秤量, 5 mM Tris HCl (pH 7.5), 1 mM $MgSO_4$, 0.2 mM dithiothreitol, 2 mM EGTA にて終末 50 ml のホモジェネートを作り, 10,5000×g, 70 分にて遠心沈澱し, この沈澱を 10 mM Tris HCl (pH 7.5), 1 mM $MgSO_4$, 0.05 mM dithiothreitol, 150 mM NaCl, 0.1 mM EGTA に溶かし, 顆粒分画の PDE 及び modulator 蛋白の測定に用いた。上清は濃縮し, 一部をゲル口過に, 残りを 10 mM Tris HCl (pH 7.5), 1 mM $MgSO_4$, 0.05 mM dithiothreitol, 150 mM NaCl, 0.1 mM EGTA にて透析して可溶分画の PDE 活性及び modulator 蛋白の測定に用いた。肝癌 (又は正常肝) の上清の 1.25g 分をセファデックス G 200 のゲル口過に用いた。PDE 及び modulator 蛋白の測定は垣内らの方法によった。cyclic AMP-PDE, cyclic GMP-PDE は基質濃度 4 μ M cyclic AMP, cyclic GMP に, ラット大脳より部分精製された modulator 蛋白と 0.05 mM Ca^{++} 添加の

場合と1mM EGTAのみ添加の場合が測定された。

上記の酵素標品と同じものについて、可溶分画と顆粒分画のmodulator蛋白の測定を行った。尚、顆粒分画のmodulator蛋白は0.2% Lubrol PXにて可溶化した後測定した。

〔成績〕

可溶分画におけるcyclic AMP-PDE, cyclic GMP-PDEは0.5mM Ca^{++} とmodulator蛋白を添加した場合（添加型活性）と1mM EGTAのみ添加した場合（無添加型活性）について測定した。早い増殖型3924Aでcyclic AMP-PDEの添加型活性は正常肝のその約4倍に増大していたが、添加型活性と無添加型活性の比、すなわち、 Ca^{++} とmodulator蛋白によるcyclic AMP-PDEの活性化は正常肝、遅い増殖型9633, 3924Aの間に大きな差はなく、むしろ順次低くなっていた。これに反して、cyclic GMP-PDEの Ca^{++} とmodulator蛋白による活性化、すなわち添加型活性と無添加型活性の比は3924Aで最も高く3.39倍、9633で2.20倍、正常肝で1.26倍と顕著な差を認め、肝癌の可溶分画cyclic GMP-PDEは Ca^{++} 及びmodulator蛋白の感受性に变化のあることが認められた。この肝癌における変化はゲル口過によるisozymeにも現われている。3924Aのcyclic AMP-PDEは添加型、無添加型とも大きな4個のピークを有し、9633, 7794Aでは分子量の10万のピーク以外その活性は減少し、先の可溶分画PDEの結果に一致している。又、cyclic GMP-PDEは正常肝では3個の明らかなピークを有するのに、3924Aにおいては分子量15万の単一ピークのみとなり、9633, 7794Aは、その中間型を呈する。この分子量15万のcyclic GMP-PDEは Ca^{++} 及びmodulator蛋白依存性PDEである。このようにゲル口過において、3924Aの Ca^{++} 及びmodulator蛋白依存性cyclic GMP-PDEが増加していることは、先の可溶分画のPDE活性の結果、3924Aで添加型cyclic GMP-PDE活性が増大していることに一致する。次に、これらの組織の可溶分画のmodulator蛋白は、3924Aで正常肝の4.6倍、9633は1.3倍、逆に顆粒分画では、3924Aは正常肝の5分の1、9633は2分の1となっており、可溶分画と顆粒分画のmodulator蛋白の合計には大きな変動がないのに、3924Aのmodulator蛋白の大部分は可溶分画に存在していた。すなわち、肝癌組織において、modulator蛋白の顆粒分画から可溶分画への局在変位が生じていることが示唆される。顆粒分画PDEは、3924Aにおいてcyclic AMP-PDE活性の増大が認められた以外、正常肝と肝癌組織の間に大きな差異はなかった。

〔総括〕

3924Aで明らかなように、cyclic AMP-PDEの上昇が肝癌組織で認められることは、この組織のcyclic AMP含有量が減少していることと一致するが、cyclic AMPの減少（又はcyclic AMPとcyclic GMPの比の減少）が必ずしもこの腫瘍群の増殖速度と一致しないというHickieらの見解からも、cyclic AMP-PDEとcyclic GMP-PDEの変動を直接細胞増殖と結びつけることは困難である。しかし、これらの腫瘍組織で Ca^{++} 依存性cyclic GMP-PDE活性が上昇し、特に3924Aでは、無添加型活性の低下を補うために、cyclic GMPの加水分解の大部分を Ca^{++} とmodulator蛋白依存性PDEに依っていることは興味ある知見である。加えて、肝癌組織におけるmodulator蛋白の顆粒分画から可溶分画への局在変位は、この組織におけるmodulator蛋白のcyclic GMP-PDEへの関与をより強固にするものである。換言すれば、この肝癌組織においては、cyclic GMPの加水分解のために、

PDE 自身の Ca^{++} 及びmodulator蛋白への感受性の変化と、modulator蛋白の顆粒分画から可溶分画への移行をしていると考えられる。又、このmodulator蛋白が他の多くの Ca^{++} 依存性酵素活性及びtubulinの脱重合、分裂装置の形成等の Ca^{++} 依存性生理機能に関与していることを考え合わせると、肝癌組織でのmodulator蛋白の局在変位はPDE活性の調節以外に直接、間接に細胞分裂に関与している可能性がある。

論文の審査結果の要旨

Morris 実験肝癌においてphosphodiesteraseの活性、isozymeの変動、 Ca^{++} とmodulator蛋白への感受性の変化、及びmodulator蛋白の顆粒分画から可溶分画への局在変位を認めたことは、肝癌組織におけるcyclic nucleotideの動態及び Ca^{++} の細胞内mediatorとしてのmodulator蛋白の生理機能を明らかにしたもので、学位を授与する価値のあるものである。